

体育教師について —教師教育の視点から—

南島永衣子¹⁾

About a P.E. Teacher

～ From the Aspect of P.E. Teacher Education ～

Eiko MINAMISHIMA

Key words : 優れた体育授業, 組織的観察法, 教師教育, 模擬授業, 実戦的指導力

1. はじめに

これまで「言いつ放し, やりつ放しの教育・体育」という批判が度々言われてきた。特に, 体育授業においては, 子どもにボールを与えその後はゲームばかりさせ, 子どもたちの自由な活動と化す体育授業も珍しくない。果たしてそれで体育としての存在価値はあるのだろうか…。

このような現状のもと高橋(2003)は, 体育科の存在根拠を確かなものにしていくため, 子どもによる授業評価の実施や, 教師の継続的な授業改善の必要性を述べている。近年では多種多様な観点から体育授業を観察評価していく手法が開発されてきた。それによってこれまで経験値で語られることが多かった「優れた体育授業」の全貌が明らかとされた。

そこで本稿では, これまでの体育科教育の研究実践について, 優れた体育授業の特徴と教師教育の視点から簡単に述べたいと思う。

2. 優れた体育授業の特徴

高橋は優れた体育授業とは, 「学習目標が十分に達成され, 学習成果が上がっている授業」であり, また, 優れた体育授業は, 子どもによる授業評価においても高い評価を得ていると述べている。

そして, この優れた体育授業は, 「学習の勢い」(福ヶ迫, 2003)と「学習の雰囲気」(平野, 1997)の大きく2つの側面から特徴を説明することができる。

(1) 学習の勢い

学習に勢いがあるとは, 体育授業場において運動学習場面(以下, A2場面)の時間量が潤沢であり, 逆にマネジメント場面(以下, M場面)や学習指導場面(以下, I場面)の時間量や頻度が少ない。加えて, A2場面での学習従事量が高く, 課題から離れた行動が少ない(米村, 2004)。また, 成功裡な学習の頻度が多く, 大きな失敗や困難の割合が低いことである(高橋, 1989)。

(2) 学習の雰囲気

学習の雰囲気が良いとは, 仲間への賞賛や励まし, 助言などの肯定的な人間関係行動の頻度が高く, 反対に, 審判に文句を言う, 仲間を責める, 苦言を吐くなどの否定的な人間関係行動は殆どない。また, 学習活動では, 拍手, ガッツポーズ, ハイタッチなどの肯定的な情意行動が多く, 泣く, 緊張, 不安, 怒りなどの否定的情意行動は見られないといったものである(米村, 2004)。何より, 教師の相互作用が頻繁に行われており, 特に技能に関わった肯定的, 矯正的フィードバック(以下, FB)が多くの頻度でかけられている。

1) 生涯スポーツ学科

このような特徴の授業は、授業評価の推移とともに、各授業場面や教師の相互作用頻度も推移していく(図1)。

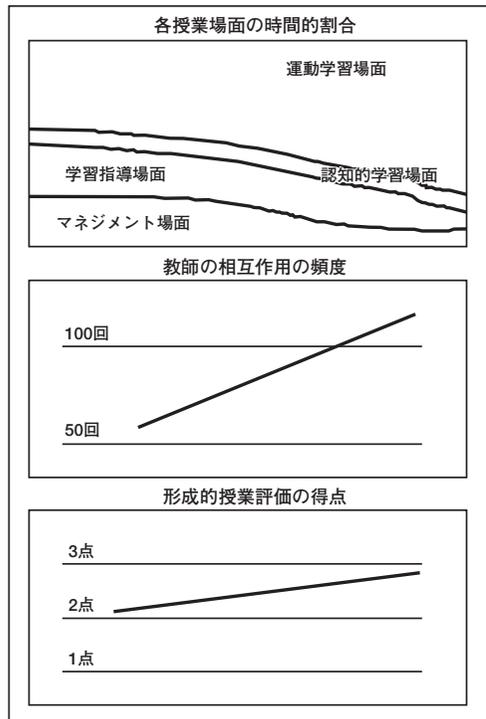


図1 単元過程の授業場面及び教師の相互作用の推移イメージ

3. 本学での模擬授業における具体的な取組

そこで本学生たちは、優れた体育授業の実践に近づけるよう、体育の模擬授業(以下、模擬授業)を実施し、自ら観察や評価・分析を行っていく。またその際本学では、幾つかの基準を学生に提示している。

1つは、体育授業場面の割合である。単元内容やその取り扱い時間によって授業場面量が異なるが、先行研究を基に、本学ではM場面10%以下、I場面20%程度、A1学習場面10%台、A2場面50~60%以上と設定している。更に、相互作用の頻度は100回以上を目指すよう伝えている。両者の指標は、授業評価と正の相関関係があるとされている。そのため、学生たちにはこの2点に留意しながら

模擬授業を実践していく。その際重要視しているのが、模擬授業終了後のリフレクションである。学習内容・学習環境・教師行動そして、組織的観察法による観点から授業省察を行う。この模擬授業→記録→分析→リフレクションのシステムによって、学生たちは、客観的に授業の善し悪しを評価できるようになるとともに、具体的な改善策を導き出すことができるようになっていく。

4. まとめ

さて今回は、これまで体育科教育で研究されてきた優れた体育授業の特徴を中心に述べてきた。これらの特徴が明らかになったことで、これまで経験値として捉えられていたものが、客観的な観点から伝承可能となり、教師教育においても共通の指標を示せるようになった。このことは、実践力の育成に大きく寄与できると考えられる。今後は、学生が学んだ知識や理論を更に実践にいかせられるよう、模擬授業の映像を見ながら分析的に省察できるような仕組みをつくりあげていきたい。

参考文献

- 1) 福ヶ迫善彦ほか(2003) 体育授業における「授業の勢い」に関する検討—小学校体育授業における学習従事と形成的授業評価との関係を中心に—。体育学研究48(3):281-297.
- 2) 平野智之ほか(1997) 体育授業における集団的・情意的行動観察の開発。
- 3) 高橋健夫(2000) 子どもが評価する体育授業過程の特徴—授業過程の学習行動及び指導行動と子どもによる授業評価との関係を中心に—。体育学研究45(1):147-162.
- 4) 高橋健夫(2003) 体育授業を観察評価する。明治出版。
- 5) 高橋健夫・岡沢祥訓・大友智(1989) 体育のALT観察法の有効性に関する検討—小学校の体育授業分析を通して—。体育学研究34(1):34-43.
- 6) 米村耕平(2004) 小学校体育授業における「授業の雰囲気」と形成的授業評価との関係についての検討。体育学研究49(3), 231-243, 2004-05-10.